

外国語

1 研究テーマの設定

外国語科では、新学習指導要領の実施に際し、その中で示されている育成すべき資質・能力に基づいて、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の三つに、学習プロセスとして促進すべき「主体的・対話的で深い学び」を加えた4つの枠組で研究テーマを設定した。

2 各テーマの研究内容

学校現場での「指導と評価の一体化」の実現に資するために、評価の3観点に基づくテーマにおいては、具体的な指導法や（言語）活動を考案・実践するとともに、それぞれの評価方法についても研究対象とした。「主体的・対話的で深い学び」については、主体的な学び、対話的な学び、深い学びのそれぞれが、明確な目的をもって効果的に行われる授業デザインを研究内容とした（詳細は下の表を参照）。

研究テーマ	研究内容
英語授業における「知識及び技能」を高める指導と評価	<ul style="list-style-type: none">◆文脈を意識した文法事項・文構造、語彙・表現の提示・指導 視点：具体的な言語材料の指導における、使用場面と働きを明確にした文脈や談話の設定の仕方 など◆知識・技能を見取るテストアイテム 視点：(特定の)言語材料の正確な理解と「読むこと」「聞くこと」「書くこと」における使用能力を測る、ペーパーテストの設問など
英語授業における「思考力、判断力、表現力等」を高める指導・言語活動	<ul style="list-style-type: none">◆目的、場面、状況のあるタスク（＝単元タスク）の設計と「思考・判断・表現」を含む評価項目 視点：タスク設計の仕方、年間シラバスにおける領域別単元タスクのバランス、レベル調整 など◆単元タスクにつながる、教科書内容の学習における「思考・判断・表現」を促す働きかけ 視点：教科書レッスン・パートごとの思考・判断を促す工夫と、それに基づく単元タスクの実行可能性 など

研究テーマ	研究内容
英語授業における「主体的に学習に取り組む態度」を促す指導と学習活動	<p>◆自律的学習、自己調整学習を促す働きかけ 視点：「振り返りシート」「ポートフォリオ」等、自身の学習をメタ認知するシステムなど</p> <p>◆自律的学習、自己調整学習を促すシステムの評価 視点：「振り返りシート」「ポートフォリオ」等の評価法 など</p>
英語授業における「主体的・対話的で深い学び」を促す指導と言語活動	<p>◆主体性をもって取り組む言語活動の工夫 視点：生徒による選択、目的・行動の設定、各技能向上へのつながり など</p> <p>◆対話的な学びを促す言語活動の工夫 視点：話すこと[やり取り]を絡めた統合的活動、読み手を設定した英作文 など</p> <p>◆深い学びを促す言語活動、発問の工夫 視点：評価発問・推論発問の設定やそれらに基づく表現活動への発展 など</p>

■「知識及び技能」を高める指導と評価

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

英語授業における「知識及び技能」を高める指導と評価

(2) 研究のねらい

新学習指導要領の実施に当たり、言語材料に関する「知識及び技能」を高める指導と評価の在り方を考え、実践することで、そのアプローチが言語学習にもたらす効果について考察する。

(3) 研究担当者

神奈川県立横浜翠嵐高等学校（全日制） 八角 勇貴 教諭

2 実践事例

(1) 単元の指導と評価の計画

① 科目名：英語表現Ⅱ

② 単元名：Lesson 8 Global Warming ～UNICORN English Expression 2（文英堂）

③ 単元の目標：若者と親世代の価値観の違いについて、自らの経験を交えながら、客観性や論理性に注意して、自分の考えを書いて伝えることができる。読み手にわかりやすい英文になるよう、インターネットなどを活用し、表現の誤りなどを校正し、自らの学習課題を解決することができる。

④ 単元の評価規準 a：知識・技能 b：思考・判断・表現 c：主体的に学習に取り組む態度

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・「似ている」、「違う」などの表現を理解している。 ・類似点や相違点について書く技能を身に付けている。 	若者と親世代の価値観の違いについて、自らの経験を交えながら、客観性や論理性に注意して、自分の考えを書いて伝えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・若者と親世代の価値観の違いについて、自らの経験を交えながら、客観性や論理性に注意して、自分の考えを書いて伝えようとしている。 ・自らの学習課題を見つけ、それらを解決しようとしている。

⑤ 単元（題材）の指導計画

次	時	学習内容及び学習活動	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
1	1	【導入】 1 学習目標の把握 (1) 単元の目標を理解する。 (2) 自らの学習について、うまくできることやできないことなど、現在の状況を確認する。 【展開】 1 重要表現の学習 教科書の重要表現が実際にどのような使われ方をするかを理解する。 ・インターネットサイト「Youglish」で、本単元の重要表現が使われているYouTube動画を複数見る。表現の使用場面の特徴などを各自考え、ペア、クラスで共有する。 ・スライドに明示的に示された文法項目の形式、意味、使用などをクラス全体で学ぶ。			○	自らの学習状況について現状分析が明確にできている。	ワークシート

2	2	<p>2 問題演習①</p> <p>(1) 文法問題と和文英訳問題の個人演習を行い、ペアで解答の確認を行う。</p> <p>(2) 自らの解答が正しい理由、誤っている理由を明確にする。</p> <p>(3) ペアワークで、上記の「誤っている理由」について、さらにインターネットで調べ、その学びを共有する。</p>					
3	3	<p>3 問題演習②</p> <p>(1) 和文英訳の個人演習を行う。</p> <p>(2) ペア添削を複数回行う。</p> <p>(3) ペア添削で出てきた疑問をグループ又は異なるペアで議論する。文法や表現に関する疑問はインターネットで調べてその場で解決していく。</p> <p>4 振り返りシートの記入 再度、同じ和文英訳の個人演習を行う。自らの学習課題を解決するために必要な今後の学習について振り返る。</p>			○	自らの学習課題を解決しようとしている。	ワークシート
4	4	<p>5 英作文パフォーマンステスト 問：「次の設問について、50語程度の英文を書きなさい。」 Describe some of the values that young people in Japan have that are different from those of their parents.</p>	○	○	○	ループリック	パフォーマンステスト

⑥ 授業実践例

学習活動（指導上の留意点を含む）	評価の観点（評価方法）
<p>1. 導入</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を確認し、現状分析を行う。英訳する際に自信のある部分には実線、不安な部分には波線を書く。また波線にした理由を明確に記述し、それらをペアで共有する。 <p>2. 重要表現の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回のテーマである similar / alike などの「似ている」という言葉についての知識を書き出して、共有する。自らの学習についての現状分析を行うため、関連する知識まで全てを書き出す。 「Youglish」を用いて、similar / alike が実際の場面でどのように使用されているかを考え、各自の答えをペアで共有する。この際に、明示的な指導をせずに、実際の使用場面から、用法を理解させる。 全体での共有後に、similar / alike / resemble について明示的に指導する。 <p>3. 本時の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容についてペアで復習を行う。プリントやノートは一切見ずに、本日の学びを口頭で言語化していく。（ブレインダンプ） 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>ワークシート</p>

実施日：令和3年10月15日（金）

○ 指導の詳細

・ 知識の理解を促す指導

特定の言語材料の知識を、技能として適切に使用できるものとするため、実際の使用場面を意識し、用法を学ばせる。Youglishというサイトで、本単元の重要語彙が使われている動画を視聴し、用法について気付いた点を共有する。生徒は、明示的な語彙指導からではなく、実際の使用場面から、similarとalikeの使用や形式の特徴を自ら発見する。

[Youglish] (令和3年10月15日アクセス)

<https://youglish.com/pronounce/similar/english?>

<https://youglish.com/pronounce/alike/english?>

How to pronounce **similar** in English (1 out of 100019):



could have a **similar** kind of experience to those who were

How to pronounce **alike** in English (5 out of 5636):



stories the world impresses upon us in boardrooms and classrooms **alike**.

・ 技能の習得を促す指導

単元の最初に、単元の学習の最後に行うパフォーマンステストの問いを提示し、目標達成のために何をすればよいかを考えさせ、振り返りシートを用いて、自らの学習を調整することができるよう指導する。本単元で学んだ重要表現に関する知識を、どれだけ技能として活用できているかを確認させ、自らの学習課題を発見し、それらを解決しようと自立的に取り組む学習者を育てる。

[ワークシート (抜粋)]

自分の課題を認識する

① 現状分析:

その国の言語に興味をもつことの第一歩はその国の文化、人々を好きになることです。

first stepに似てる? become to like?

日本人は、アメリカもヨーロッパもオーストラリアも同じような文化を根づき持っているのだから

何の? 根? 何の? 何の? 何の? 何の?

like? like? like? like? like? like?

similar? similar? similar? similar? similar? similar?

自己評価

60%

教科書の和文英訳問題に解答するために、必要な言語材料の知識・技能がどのくらいあるかを自己評価し、割合で表す。

和文英訳する際の疑問点を書き出す。

(2) 結果の検証

ア パフォーマンステストにおける「知識・技能」の評価

○ 内容

若者と親世代の価値観の違いについて、自らの経験を交えながら、客観性や論理性に注意して、自分の考えを書いて伝える。

○ 採点の基準

学習到達目標に基づき作成したルーブリックを使用した。

	正確さ (知識・技能)	内容 (思考・判断・表現)	態度 (主体的に学習に取り組む態度)
A	ほぼ正確な文章を書いている。	異なる価値観について、具体例を用いて詳細に記述している。	異なる価値観について、具体例を用いて詳細に記述しようとしている。
B	多少の誤りはあるが、伝わる英文を書いている。	異なる価値観について記述している。	異なる価値観について記述しようとしている。
C	伝わらない英文が見られる。	異なる価値観について記述していない。	異なる価値観について記述しようとしていない。

○ 生徒の解答例及び採点の結果

〔生徒の解答例①〕 全てAとなる例

I think young people in Japan and their parents have different values of politics and education. People of different ages focus on various points.
For example, when they go to the election, parents usually put their values on the pension system, which young people don't care about.
The idea of studying is also different. Young people often think keeping company with their friends or putting their hearts into club activities or school events are more important than studying. However, parents tell them to study hard, even though they didn't work hard when they were students. In fact, they sometimes forget about their school days!

〔生徒の解答例②〕 正確さB、内容A、態度Aとなる例

I think that young people in Japan have some values, gender, and fashion, unlike their parents. These days, some men make up like women, and some students of girl wear pants in the uniform instead of skirts. Young people are not ruled that " They should do to suit their sex.", which expresses that they protect their individuals. Indeed,now, there is much old common sense about gender, but we should learn new about it, and then we should understand their hopes.

文法の誤りが目立つため、正確さ（知識・技能）をBとする。

〔採点の結果〕 (N=35)

	正確さ (知識・技能)	内容 (思考・判断・表現)	態度 (主体的に学習に取り組む態度)
A	28人 (80.0%)	31人 (88.7%)	31人 (88.7%)
B	7人 (20.0%)	4人 (11.4%)	4人 (11.4%)
C	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)

○ 考察

単元で学習した言語材料を積極的に使用するよう指導したこともあって、「似ている・違う」などの表現を、多くの生徒が正確に使用した。一方、既習の表現、文法での誤りが散見され、様々な言語活動において正確に活用できるレベルまで既習の表現や言語材料の知識・技能を高めることが重要であると感じた。また、多くの解答に同じ表現を繰り返し使用している傾向がみられた。繰り返しを避けるために類義語の学習を取り入れることや、同じパターンでの書き方とならないように、基本的な文法事項を用いた様々な表現方法の学習が必要である。

イ 「知識及び技能」を高めるための学習方略の活用度

○ 生徒の評価

実施方法：アンケート（マークシート・記述）

対象生徒：3年生（33名）

質問①：実際の使用場面を動画などで確認することは、語彙や表現の学習に重要だ。

大いにそう思う	そう思う	そう思わない	全くそう思わない
15人	16人	2人	0人
45.5%	48.5%	6.1%	0.0%

質問②：実際の使用場面を動画などで確認することは、語彙や表現の習得に役立つ。

大いにそう思う	そう思う	そう思わない	全くそう思わない
7人	21人	4人	1人
21.2%	63.6%	12.1%	3.0%

質問③：家庭学習で、実際の使用場面を動画などで確認して、語彙や表現の学習をしている。

している	少ししている	余りしていない	全くしていない
2人	14人	15人	2人
6.1%	42.4%	45.5%	6.1%

質問④：自己認知を行うことで、自らの課題を見つけることができた。

※「自己認知」とは、できることとできないことなど現在の学習状況を確認することと定義する。

できた	少しできた	余りできなかった	できなかった
12人	18人	3人	0人
36.4%	54.5%	9.1%	0.0%

質問⑤：自己認知を行うことで、自らの課題を解決することができた。

できた	少しできた	余りできなかった	できなかった
9人	17人	6人	1人
27.3%	51.5%	18.2%	3.0%

質問⑥：自己認知を行うことは、学習効率を高めると感じる。

大いにそう思う	そう思う	そう思わない	全くそう思わない
13人	19人	1人	0人
39.4%	57.6%	3.0%	0.0%

○ 考察

94.0%の生徒が、語彙や表現の学習において、実際の使用場面を動画などで確認することの重要性を感じており（質問①）、84.8%の生徒が習得に役立つと感じている（質問②）。しかし、家庭学習でそれを実践している生徒は48.5%である（質問③）。また、97.0%の生徒が、自己認知を行い、自らの課題を見つけることが学習効率の向上につながることを実感していることが分かった（質問⑥）。しかし、生徒一人ひとりが見つけた課題を授業内ですべて解決することは極めて困難であるため、家庭学習などの自律的な学習を促していく必要がある。

新学習指導要領に基づく、目的や場面、状況などに応じて適切に活用される「知識及び技能」を身に付けさせることが非常に重要であり、それらが生徒の関心・意欲を引き出し、英語力の向上につながっていくと思われる。また、動画等の活用にはこれからも研究が必要である。

■「思考力、判断力、表現力等」を高める指導・言語活動と評価

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

英語授業における「思考力、判断力、表現力等」を高める指導・言語活動と評価

(2) 研究のねらい

新学習指導要領の実施に当たり、目的や場面、状況に応じた「思考力、判断力、表現力等」を高める指導と評価の在り方を考え、実践することで、そのアプローチが言語学習にもたらす効果について考察する。

(3) 研究担当者

神奈川県立平塚江南高等学校（全日制） 辻 祐哉 教諭

2 実践事例

(1) 単元の指導と評価の計画

① 科目名：コミュニケーション英語 I

② 単元名：Lesson 5 Umami ～Revised ELEMENT English Communication I（啓林館）

③ 単元の目標：本単元の指導を通して、以下の力を身に付けさせる。

- ・ レシピの作成を通じて教科書の内容（うまみ・食）を現代社会に結びつけて考える力
- ・ 与えられた情報に対して批判的に考える力

④ 単元の評価規準 a：知識・技能 b：思考・判断・表現 c：主体的に学習に取り組む態度

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ レシピを書いて伝えるために必要となる語彙や表現を理解している。 ・ 食について、情報や考え、気持ちなどを、理由とともに書いて伝える技能を身に付けている。 	読み手に「食べてみたい」と思ってもらえるように、食について、情報や考え、気持ちなどを、理由とともに書いて伝えている。	読み手に「食べてみたい」と思ってもらえるように、食について、情報や考え、気持ちなどを、理由とともに書いて伝えようとしている。

⑤ 単元（題材）の指導計画

次	時	学習内容及び学習活動	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
1	1	【語彙・文法】 新出語彙・新出文法の確認			○	授業内容を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	振り返りシートの記述
	2	【文法・導入】 新出文法の確認 スピーキングストラテジー 教科書の導入			○	授業内容を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	振り返りシートの記述
2	3	【Part 1】 Part 1の内容理解、解説			○	授業内容を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	振り返りシートの記述
	4	【Part 2】 Part 2の内容理解、解説			○	授業内容を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	振り返りシートの記述

	5	【Part 3】 Part 3の内容理解、解説			○	授業内容を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	振り返りシートの記述
	6	【Part 4】 Part 4の内容理解、解説			○	授業内容を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	振り返りシートの記述
3	7 本時	【パフォーマンステストの導入】 レシピやメニューの読み取り レシピの作成			○	授業内容を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。	振り返りシートの記述
	8	レシピの完成、全体共有	○	○	○	最終ページに記載のあるルーブリック参照	成果物 振り返りシートの記述

⑥ 授業実践例

学習活動（指導上の留意点を含む）	評価の観点 （評価方法）
1. 導入 <ul style="list-style-type: none"> ・モニターに表示したレシピを見て何の料理ができるのか、ペア又はグループで推測する。 ・その料理に関してペアで会話をする。 2. レストランメニューの読み取り <ul style="list-style-type: none"> ・レストランメニューの見方や表記を考える。 ・veganやfree-rangeなど「食」に関する多様な価値観について理解を深める。 3. レシピの作成 <ul style="list-style-type: none"> ・複数のレシピを参考にし、レシピの作成に活用できるような表現をペアで確認する。 ・Chromebookを用いて、レシピを作成する。 4. 本時の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容について振り返りシートに入力する。 	主体的に学習に取り組む態度 （振り返りシートの記述）

実施日：令和3年11月2日（火）

○ 指導の詳細

- ・「思考力、判断力、表現力等」を高める指導・言語活動

単元の最後に行うパフォーマンステストのレシピ作成の指示に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを明確に示した（図1）。また、教科書や、関連する時事的な話題を扱った他教材から必要な情報を得て取り組むよう指導した。

<TASK ⑧> Make your own recipe.

以下の<状況>や<条件>などを見て、Umami を堪能できる料理のレシピを作ってください。

<状況>

オンライン交流で海外の高校1年生とメールでの交流をしています。「英語の授業で今、何を勉強しているのか」と聞かれたあなたは、「Umamiについて勉強している」と返信しました。すると、「Umamiを堪能できる料理は何があるか？それを作って食べてみたいから、レシピを教えてくださいか？」とお願いがありました。彼（彼女）がUmamiを堪能できる料理のレシピを作ってください。

<条件>

- 交流相手は次の3名のうち1名を仮定し選択する
Chris (Vegetarian) / Ally (Vegan) / Mohammad (Muslim)
- 交流相手の出身地や日本が好きかどうか、などの詳細については各自で設定してよい
- Umami を堪能できる材料を必ず使用する（教科書のインフォグラフィックが参考になります）
- Chris (Vegetarian) / Ally (Vegan) / Mohammad (Muslim)向けの料理のレシピにする
- ①その料理の魅力、②Ingredients（材料）、③Instructions（調理方法）の3点をスライドに書く
- なぜその料理を選んだのかをスピーカーノート（スライドの下にある発表原稿やポイントを書く欄）に書く（交流相手の名前, I made you a recipe for 料理名. の一文で始め、相手に返事を書くように）

<その他>

- Google Slides で作成します。条件を守れば、レイアウトなどは全て自由です。写真などを入れてもらってもかまいません。
- 海外の料理でも日本の料理でもかまいません。家や図書館にある料理本やインターネットなど自由に調べてもらってもかまいませんが、英語で書かれたレシピをそのまま丸写しすることは禁止です
- レシピのサンプルは Google Slides の 41 枚目（辻のサンプル）やこの冊子の pp.22-24 にもあります。フォーマットを参考にしてください。

図1 生徒のハンドアウトに載せた本単元のパフォーマンステストの指示

(2) 結果の検証

ア 「思考力、判断力、表現力等」を高める指導・言語活動についての生徒の評価

- ① 実施方法：アンケート（選択・記述）
- ② 対象：1年生（77名）
- ③ 実施時期：本単元終了時
- ④ 結果

○ 本単元と他の単元のパフォーマンステストの比較評価

今までの取り組みの中で、思考力が高まったと思うものを選択してください。（複数選択可）

77件の回答

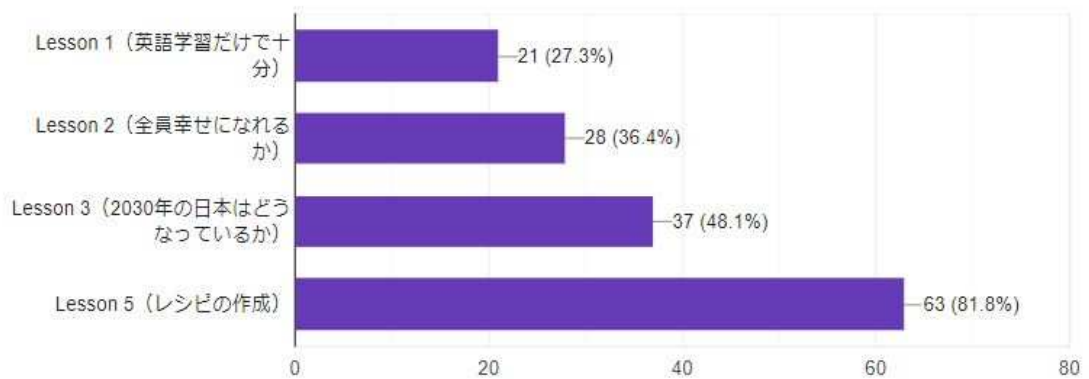


図2 本単元と他の単元のパフォーマンステストの比較評価

○ 本単元のパフォーマンステストの評価

Lesson 5のTASK⑦～TASK⑧（レストランメニューの読み取り～レシピの作成）についてお聞きします。取り組んでみての感想を1つ選んでください。（達成感があるか、思考力が高まったか、という観点で考えてみてください。）

77件の回答

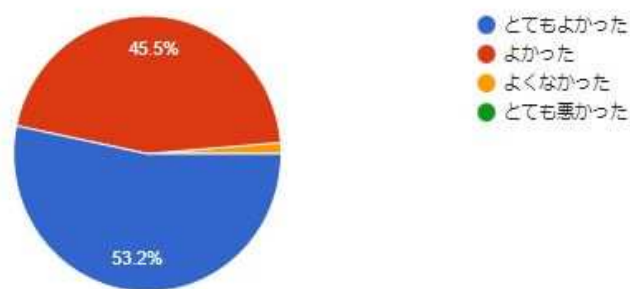


図3 本単元のパフォーマンステストの評価

○ 本単元のパフォーマンステストの評価の理由（一部抜粋、原文のまま）

- ・ 目的を具体的に設定してレシピを作成するのは、つくる相手にとってどんなものが良いか考えたりふだんとはまた違った頭の使い方ができて思考力が高まったと思います。
- ・ 日本語でもちょっと考える必要のある課題だったので、英文にする際に表現方法を考え込む必要があってやりがいがあった。（難しい表現を削り、英文をつくるという思考力）
- ・ ヴィーガンやベジタリアンについて知識が浅かったからこそ、わからないことが多くてとても苦戦していたけれど、最後にレシピができた時に実際に海外の人にも見てもらいたいと思えるくらい、楽しくできたので良かったかなと思った。

- ・ベジタリアン等の人たちのことを知ることができて、将来そのような人に出会ったときには考えて行動できるなど思った。
- ・翻訳に頼ってしまった部分が多かったから。

⑤ 考察

本単元終了時まで実施した4回のパフォーマンステストを比較する質問では、81.8%の生徒が本単元のパフォーマンステストで思考力が高まったと回答している(図2)。他の単元のパフォーマンステストではトピックとループリックを提示するのみであったが、本単元のパフォーマンステストでは、コミュニケーションを行う目的や場面、状況について具体的な条件を示した。このことが要因であると推察される。

本単元のパフォーマンステストについて、98.7%の生徒が肯定的に評価した(図3)。「(とても)よかった」と評価した生徒の理由から、交流相手の「食」に関する制限を考慮してレシピを考案する過程や、交流相手に伝わる表現になるようレシピを推敲する過程で、思考力の高まりを感じていることが分かる。また、「食」に関する多様な考え方について理解を深める過程で、自らの学びを客観的に振り返っている記述からは、「主体的・対話的で深い学び」が実現している様子がうかがえる。一方、本単元のパフォーマンステストを「よくなかった」と評価した生徒の理由に、「翻訳に頼ってしまった」とあった。レシピやレストランメニューの読み取りなどの内容面の指導に加え、書いて伝えるために有用な語彙や表現、文や内容の構成など、英語使用の適切さについての言語面の指導を行う必要がある。

イ 「思考力、判断力、表現力等」を高める指導・言語活動についての生徒の反応(振り返りシート)

○ 生徒のコメント(一部抜粋、原文のまま)

- ・レシピを書くときに、人参はa, two…と数えられて、他の野菜や食材も大体そうだろうと思っていたら、結構、不可算名詞が多くて、stalks ofという新しい表現を知ることができました。ただ、なんでその食材をa, two…と数えてはいけないのかがよくわからないので、調べようと思います。他の野菜の数え方も知っておきたいです。
- ・今日は、単語テストの結果や手応えなどを含めて自分の中で、単語の学習の仕方があっているものを見つけたので今後もそれを続けていきたい。
- ・授業の後に振り返りを書き、テスト前などにもう一度見て、どこが苦手なのか、何ができたのかを知れるため、活用しやすいと思った。
- ・仲間と協力してレシピを完成させることができたので良かった。
- ・食材を限定した上で、自分でレシピを選んで英語に変換することで、文章構成や、伝わりやすくするにはレシピにどう工夫をすればいいのかなどを考えられた。

○ 考察

新しく生じた疑問に対する積極的な姿勢や自身の学習方略を見つめ直すメタ認知についての言及が多くみられた。また、振り返る機会の重要性について認識している意見も多くみられた。受動的に授業を受けるのではなく、レシピ作成という課題に取り組むことを通して、能動的に授業に参加している様子が確認できた。

ウ パフォーマンステストにおける「思考・判断・表現」の評価

- ① 内容：図1 参照
- ② 対象：1年生（77名）
- ③ 実施時期：本単元第8時
- ④ 採点の基準

生徒全員に達成してほしい状況を○に記述している（図4）。「理解のしやすさ」を「知識・技能」、「適切さ」を「思考・判断・表現」、「意欲・態度」を「主体的に学習に取り組む態度」として見取ることができる。「適切さ」と「意欲・態度」の◎にある「交流相手にふさわしい」とは、(1)食の多様性を理解し、相手が食べられる料理のレシピになっている、(2)各自が自由に設定した交流相手の状況の詳細に即している、の二つの条件を満たしている状況とした。

	理解のしやすさ (通じる英語を書いているか)	適切さ (提示するレシピとしてふさわしいか)	意欲・態度 (よりよいレシピ作成を心がけているか)
◎	ほぼ正確な英文を書いている。	交流相手にふさわしい料理のレシピを作成している。	交流相手にふさわしい料理のレシピを作成しようとしている。
○	多少の誤りはあるが、伝わる英文を書いている。	交流相手への料理のレシピを作成している。	交流相手への料理のレシピを作成しようとしている。
△	伝わらない英文が見られる。	交流相手への料理のレシピを作成していない。	交流相手への料理のレシピを作成しようとしていない。

図4 生徒に提示したパフォーマンステストのルーブリック



⑤ 結果

	理解のしやすさ (知識・技能)	適切さ (思考・判断・表現)	意欲・態度 (主体的に学習に取り組む態度)
◎	63人 (81.8%)	77人 (100.0%)	77人 (100.0%)
○	14人 (18.2%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
△	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)

表1 本単元のパフォーマンステストの採点の結果


⑥ 生徒の解答例（文法等の誤りを含む）

解答例 1（評価：知識・技能◎、思考・判断・表現◎、主体的に学習に取り組む態度◎）

Yudofu (Simmered tofu) 20 minutes  

What you need (2-3 servings)
 tofu (2-3) water (1L) kelp (5cm square)
 soy sauce (to taste) *toppings (to taste)
 *chopped seaweed, chopped green onion, grated radish, grated ginger, and so on

How to cook

1. Put water, kelp and cut tofu in the pot. ↓
2. Set the pot on fire.
3. When it boils, take out the kelp and scoop up the lye. 
4. Bring it on the table with the toppings.
5. Take tofu in your small bowl, and put the toppings and pour a little soy sauce on it.

animal protein free

dairy free

egg free

➔

for vegans

★

1
8

Dear Ally

I made you a recipe for Yudofu, or Simmered tofu.

I know you love Japanese foods, so I think you must be love Yudofu too.


And you live in a cold area. This dish will warm your body.

Please try it!

See you!! xoxo


注: Ally は Vegan の設定です。それ以外の設定は全て生徒が決めています。

解答例 2（評価：知識・技能◎、思考・判断・表現◎、主体的に学習に取り組む態度◎）

Tempura Udon Noodle 

★Ingredients (for one people) 20 minutes

- Tempura flour ...1 tsp and 2 tbsp
- A serving of udon noodles
- Water ...4 tbsp and 300 g
- oil ...appropriate amount
- Shrimp ...one
- Noodle soup ...100 g



★How to make

1. Process the shrimp.
2. Put the shrimp and 1 teaspoon of tempura flour in the pad. And sprinkle.
3. Add to water and tempura flour in the bowl. And mix them.
4. Put the sprinkled shrimp in the bowl.
5. Heat the oil to 160 degrees. And deep fry the shrimp.
6. Bring noodle soup to a boil and a udon noodle.
7. Serve in a bowl the shrimp , noo soup and a udon noodle.

★ Please adjust the strength of the noodle soup as you wish. You can add kamaboko ,leeks , other tempura and so on.

Hi ! Mohammad ! I thought the recipe that you can eat . It is a tempura udon noodles. You want to eat Japanese food . And you like shrimp very much , don't you ? So I thought that you like it . Did you like it ? If you like it , I am very happy.

Umami is added to a shrimp and noodle soup. If you add other umami food such as fish , vegetable , mushrooms and so on , you can taste umami more. Please tell me whether you cook well. I look forward to hear your story.

注: Mohammad は Muslim の設定です。それ以外の設定は全て生徒が決めています。

解答例3 (評価: 知識・技能◎、思考・判断・表現◎、主体的に学習に取り組む態度◎)



Kentyojiru

~Ingredients(for six people)~

- 6 stalks of burdock
- 1 pack of fresh shiitake
- half of Japanese white radish
- 2 carrots
- 1 pack of konjac
- 1 pack of taro
- 2 sake of tofu
- 2 stalks of green onion
- 3 sticks of dashi
- sesame oil as you need
- soy sauce as you need



~How to make~

1. Peel all of burdock and slice diagonally.
2. Cut fresh shiitake calyx and into four equal parts.
3. Cut Japanese white radish into 5 mm lengths and into four or six equal parts.
4. Peel two carrots, cut it into 3 mm lengths and four equal parts.
5. Cut konjac into three equal parts, then slice thinly.
6. Peel all of taro and cut diagonally into two or three equal parts.
7. Heat sesame oil and 1~7 ingredients in a pot. Then pour water enough to hide the ingredients on high heat. After boiling put dashi and soy sauce and heat the pot for 10 minutes.
8. Mash tofu by your hands and put it in the pot. Cut green onion into 1 cm and add it to the pot.
9. Boil well the pot for about 3~5 minutes. **Complete!**

Hello, Chris. I made a recipe for you!

You said you are interested in Japanese culture, so I introduce you traditional Japanese food. Kentyojiru is a kind of miso soup. It named from a temple in Kamakura, Kentyoji.

Miso has a lot of umami, and I hope you enjoy its taste with umami!

It is not difficult to make. You have a family of six, right? Try to make Kentyojiru for your family:)

注: ChrisはVegetarianの設定です。それ以外の設定は全て生徒が決めています。

解答例4 (評価: 知識・技能○、思考・判断・表現◎、主体的に学習に取り組む態度◎)

"Soy milk pudding and
Rooibos tea two layers jelly"

This jelly made from two layers jelly.
It substitute agar for animal gelatin.
So, you can eat this jelly.
Why don't you make for dessert?

<Ingredients>

"Soy milk jelly"	"Rooibos tea jelly"
· Soy milk 90ml	· 1 Rooibos tea bag
· Water 90ml	· Water 180ml
· Sugar 1 tbsp	· Sugar 1 tbsp
· Agar 3g	· Agar 3g

<Direction>

1. Mix sugar and agar.
2. Make soy milk pudding
 - ① Water and 1. mix in the pot and heat.
When boiling, heat it for 1 minutes until it melt.
 - ② Add soy milk and boil again.
 - ③ Pour ② in the cup and cool in refrigerator.
3. Make Rooibos tea jelly
 - ① Water and rooibos tea bag boil in the pot.
 - ② Add 1. and heat it for 1 minutes until it melt.
4. Pour on the after cool 2-③ and cool in refrigerator again.

<More make>

Repeating 2-③ and 4.
You can make many layers and more beautiful.

If you do **<More make>**
you can make like this picture.



Ally, I made you a recipe for "Soy milk pudding and Rooibos tea two layers jelly".

You said you like sweets and you don't like hard thing. So, I recommend this jelly. Normally making jelly use animal gelatin. But, this jelly use agar to make. So you can eat!

I checked tea culture is prospering in Australia. It seems many kinds tea. Can you try different tea for to make? Please enjoy!

注: Ally は Vegan の設定です。それ以外の設定は全て生徒が決めています。

Burdock and Soybean curry

Foods that Included Umami: Onion, Beans, Tomato ... and more

Ingredients[A]

- Olive Oil 1 Teaspoon
- Ginger 1 slice
- Onion 1 piece
- Tomato 1 piece
- Carrot 1 piece
- Cucumber 1 piece
- Soybean 1 piece
- Soybean Oil 1 Teaspoon



Ingredients[B]

- Burdock 1
- Spice curry base 150g
- Cooking material Soybean boiled in water 1 Teaspoon
- Sesame Oil 1 Teaspoon
- Water 150ml

How to make[A]

- 1 Chop the onion into fine.
- 2 Cookie sheet lined with the dish on 1 and heat this up for 3min.
- 3 Chop Garlic 1 piece and Ginger 1 piece.
- 4 Put the Oil into the pan and 3, and put pan on the medium-heat. (Str 4 until aromatic)
- 5 Put 1 into pan and put the pan on high-heat.
- 6 Str fry until change the onion's color brown.
- 7 Put the pan on the medium-heat and add a Tomato that becomes paste.

How to make[B]

- 1 Cut Burdock into 1cm pieces and soak it into vinegar water.
- 2 Put Olive oil 1 tsp and Burdock that drained the water, stir them as you like.
- 3 Put 1 into the pan and put the pan on the medium-heat.
- 4 Boil up there and it's finished!

Ally, I made you a recipe for "Burdock and Soybean curry"! I like the texture of Burdock and Soybean, so I want to share this recipe.

This recipe will take times a little, but it can make delicious.

Many of Ingredients has Umami very much, so you can enjoy Umami without animal food.

This recipe doesn't the traditional Japanese food, but "curry rice" is arranged by Japanese people so that it is easier to eat.

If you stir Burdock a little, you can enjoy chewy of it.

My recommended way of eating is eat the curry with [rice with mixed grains]. If you do it, you can take more Umami and dietary fiber.

I hope you like it!

⑦ 考察

採点の結果、「思考・判断・表現」は全員が◎の評価となった(表1)。すべての生徒が食の多様性について理解し、交流相手が食べられるレシピを作成することができた。また、生徒の成果物や活動の様子から、「主体的に学習に取り組む態度」についても全員が◎の評価であった。「知識・技能」については、多少差がついたものの、交流相手に理解してもらえる表現かをALTなどに確認している生徒も少なくなかったため、全体的により評価となった。「理解のしやすさ」で○の評価となった生徒の英文には、“It seems many kinds tea.”(意味が通らない)や、“This recipe doesn't the traditional Japanese food,”(動詞が欠落している)などコミュニケーションに支障をきたす文構造の誤りが見られた。

エ 「思考力、判断力、表現力等」を高める指導・言語活動についての教員の反応(アンケート2名)

○ 教員のコメント(一部抜粋、原文のまま)

- 生徒がいきいきと取り組んでいたことが大変良かったです。問題に答えて正解を求めるものではなく正解もないものに対して、それぞれの個性を發揮することができたと思います。
- レシピやデザインが多種多様で、生徒も意欲的に取り組んでいたようなので良い活動だったと思います。
- 使える英語というのは、目的、場面、状況を意識する必要があると考えるので、これからも更にそのようなことを意識していきたい。
- 単元で学んだ知識を活用したり本文の内容理解を深めたりするには、このようなパフォーマンステストが必要だと思うから。
- 常に、目的、場面、状況を意識してやることができるかどうかの不安を感じる。

○ 考察

生徒が主体性をもって言語活動に取り組んでいる様子が教員の目からも観察されている。本単元のパフォーマンステストを実践した教員は私の他に2名おり、その両名が今後も「目的、場面、状況を意識」したタスクを取り入れていきたいと回答した。しかし一方で、それが実現

可能かどうか心配していることも分かった。タスク設定のノウハウや実際に実施可能なタスク例などを蓄積し、教員間で共有することで、このような不安を払しょくすることができると思う。

3 まとめ

パフォーマンステストの内容を適切に設定することは、「思考力、判断力、表現力等」の育成につながる指導の重要なポイントである。意見や考えを述べさせたり、書かせたりするためにトピックを提示し、採点の基準を示すだけでなく、コミュニケーションを行う相手や状況などについての条件を示すことにより、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた表現内容となるよう指導を行うことができる。また、「このパフォーマンスを行うことで〇〇ができるようになる」、「〇〇のような状況で英語を使って対応できる」というCAN-DOを生徒と共有することも大切であり、そのためには教員間で綿密な年間計画を立てていくことが必要であることを改めて実感した。3年間で育成したい生徒像を意識して、年間計画、単元計画、というように逆引き設計（バックワード）での授業デザインを行っていくことがより一層求められていると考えられる。

■「主体的に学習に取り組む態度」を促す指導と学習活動

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

英語授業における「主体的に学習に取り組む態度」を促す指導と学習活動

(2) 研究のねらい

新学習指導要領の実施に当たり、「主体的に学習に取り組む態度」を促す指導と学習活動の在り方を考え、実践することで、そのアプローチが言語学習にもたらす効果について考察する。

(3) 研究担当者

神奈川県立上溝南高等学校（全日制） 柳谷 孝一 教諭

2 実践事例

(1) 単元の指導と評価の計画

① 科目名：コミュニケーション英語Ⅱ

② 単元名：Lesson 6 Gaudi and His Messenger ～Revised LANDMARK English CommunicationⅡ
（啓林館）

③ 単元の目標：日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考えなどを理由とともに話して伝えることができる。また、単元での学習目標を自ら設定し、目標に照らし合わせて自らの学習過程・学習結果を自己省察することができる。

④ 単元の評価規準 a：知識・技能 b：思考・判断・表現 c：主体的に学習に取り組む態度

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。 日常的な話題や社会的な話題についての情報や考えを理由とともに話して伝える技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手に自分の考えや気持ちを理解してもらえるように、日常的な話題や社会的な話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に理由とともに話して伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手に自分の考えや気持ちを理解してもらえるように、理由とともに伝えようとしている。 目標設定がなされ、目標に照らし合わせて自らの学習過程・学習結果を省察することができる。

⑤ 単元（題材）の指導計画

次	時	学習内容及び学習活動	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
1	1	【本単元の目標設定・導入】 <ul style="list-style-type: none"> 単元を通して身に付けたい力を学習ポートフォリオに記入する（目標設定）。 テーマに関するOral Introductionを聞いて、必要な情報を理解する。 世界的に有名な建築物などの写真や動画を視聴し、背景知識を理解する。 			○	<ul style="list-style-type: none"> 適切に目標設定がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習ポートフォリオ

2	2 ～ 8	【内容理解活動・活動モニタリング】 <ul style="list-style-type: none"> 本文を読んで、概要・要点をグラフィックオーガナイザーにまとめる。 本文で用いられている語句・文構造などの意味と働きを理解する。 ペアによる音読活動(サイトトランスレーションなど)を通して、発音の確認と本文内容の整理をする。 リテリング(本文の内容を自分の言葉で再生する)を通して語彙や表現の定着・内容理解の促進を図る。 学習ポートフォリオに「できるようになったこと」や「現在用いている学習方略の効果」について記入する(活動モニタリング)。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 英文を読んだり聞いたりして、概要や要点を理解することができる。 適切に活動のモニタリングがされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 学習ポートフォリオ
3	9	【ポストリーディング活動】 <ul style="list-style-type: none"> Dictoglossの手法を用い、本文の復習をする。 外尾氏の日本社会へ警鐘を鳴らすメッセージと、人助けに対する意識を調査した結果をまとめた表を参考に、「日本人は他人に無関心か」というテーマで意見を書く(open-ended)。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 教科書で学んだことを生かしながら、自分自身の意見を論理的に書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 学習ポートフォリオ
4	10	【ディスカッション】 <ul style="list-style-type: none"> 「日本人は他人に無関心か」というテーマで、グループディスカッションを行う。グループごとに意見をまとめ発表する。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手に自分の考えや気持ちを理由とともに伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 学習ポートフォリオ
5	11	【自己省察】 <ul style="list-style-type: none"> 本単元でどのような力が身に付いたかを振り返る(省察)。また、その内容をグループ・クラスで共有する。 		○	<ul style="list-style-type: none"> 学習結果を省察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習ポートフォリオ

(2) 結果の検証

ア 検証事項

自己調整学習や自己評価を促すツールとして「学習ポートフォリオ」を活用し、その取組状況から「主体的に学習に取り組む態度」を見取ると同時に、その有用性について検証する。

イ 検証方法

- ① 調査対象：コミュニケーション英語Ⅱを受講する2年生74名
- ② 調査期間：令和3年9月から令和3年12月
- ③ 分析方法

・学習ポートフォリオ記述内容の分析

9月と11～12月の計2回記入させた学習ポートフォリオの、「Ⅲ振り返り」項目中の「これまでの英語学習でできるようになったこととその理由」についての自由記述を、テキストマイニングソフトウェア「KH Corder」を使って分析し、その*共起ネットワークを調べた。

・質問紙の自由記述の分析

9月及び12月に実施した質問紙調査の自由記述「学習ポートフォリオに取り組んだ感想」について、同様にテキストマイニングを行った。

*語と語のつながり、段落や文における出現パターンの類似性を元に、文章中におけるそれらの語の頻度や関連性を一つの図に示したもの

〔実際に使用した学習ポートフォリオ〕

45期生 第2学年

学習ポートフォリオ
～2学期期末編～



組 番 名前 _____

I 目標設定

★上記の「2学期期末までの主な活動」を参考にして、期間中にできるようになりたいことは何か考えましょう。また、その目標を達成するために、何に努力したり意識したりすればよいですか。

①できるようにしたいこと（3つまで）

- _____
- _____
- _____

②その目標を達成するために、何に努力したり意識したりすればよいですか？

II 活動モニタリング

★ここでは、コミュニケーション英語の授業の取組を記録していきます。「今日の授業で学んだこと」や「授業の感想・振り返り」はできるだけ詳しく記入してください。

日付 月 日	授業の理解度 1・2・3・4・5
今日の授業で学んだこと	
授業の感想・振り返り	

日付 月 日	授業の理解度 1・2・3・4・5
今日の授業で学んだこと	
授業の感想・振り返り	

日付 月 日	授業の理解度 1・2・3・4・5
今日の授業で学んだこと	
授業の感想・振り返り	

日付 月 日	授業の理解度 1・2・3・4・5
今日の授業で学んだこと	
授業の感想・振り返り	

III 振り返り

★これまでの英語学習で、できるようになってきたことは何ですか。なぜできるようになったと思いますか。

①目標達成度は何%ですか？
_____ %

②できるようになったことは何ですか？その理由を合わせて書きましょう。

★期間中に家庭学習として取り組んだ内容と時間を記入してください。

①取り組んだ内容

②時間数（●●に平日●時間・休日●時間）

ウ 分析結果

① 「これまでの英語学習でできるようになったこととその理由」（学習ポートフォリオ記述）の共起ネットワーク

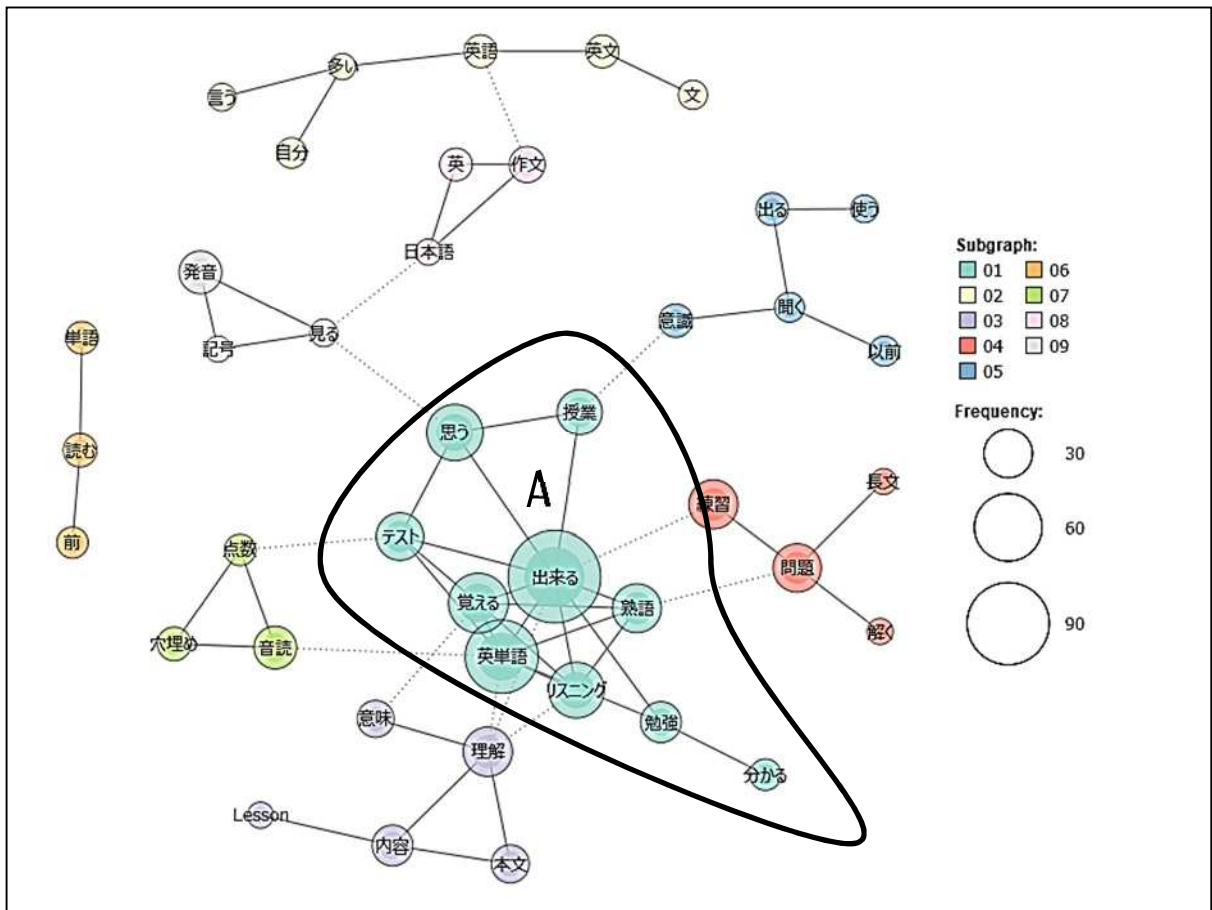


図1 「これまでの英語学習でできるようになったこととその理由」(N=74)

円の大きさから出現頻度も高く、結びつきも強固なA群の語のつながりに注目すると、多くの学習者が「英単語」と「熟語」に対して「覚える」ことができるようになったという実感があることが推察される。さらに、「リスニング」に対しても、「英単語」と「熟語」と関連させて、その力の向上を実感していることが読み取れる。また、Subgraph07の集合（A群の左）は語の出現頻度はそれほど高くないものの、穴埋め音読したことがテストの点数に結びついたと考えることもできる。このことから、当該の学習者が英語力の向上について、その要因となる言語知識や言語活動、学習方略を客観的に認知していることがうかがえる。以下は、学習者の記述の一部（原文のまま）である。

- ・リスニングや英単語・熟語の上達は実感できた。その理由は、発音に重点を置いて勉強することができたからである。
- ・今回初めて穴埋め音読を完璧にできるようになって、授業内でしっかりと話すことができ、少し自分の中で自信がつかしました。音読しつつ、内容を理解し、足りないところを補うという自分のやり方を見つけれられてよかった。英単語は何度も反復し、最初はなかなか完璧に答えられなかったが、2回目には答えられるようになっていき、反復することの重要性が理解できた。
- ・授業内のスピーキングはいつもより力を入れて率先して取り組むことができた。教科書の英文を自分で要約して、英語で自分の言葉で言うのは難しかったけれど、スラッシュ音読や穴埋め音読はペアでよく取り組めたと思う。授業内で多くやったので関係していると思います。穴埋め音読の空所に入る英単語・熟語はかなり暗記できていて、テスト前にあまり復習せずに済みました。
- ・電車の中で英単語の勉強を 毎日やったので、覚えることができた。文型などを基礎からやったので、文の構成が分かるようになった。授業で発音記号を意識して練習をしたので、家でも発音記号を参考に練習をした。

② 「学習ポートフォリオに取り組んだ感想」(質問紙自由記述)の共起ネットワーク

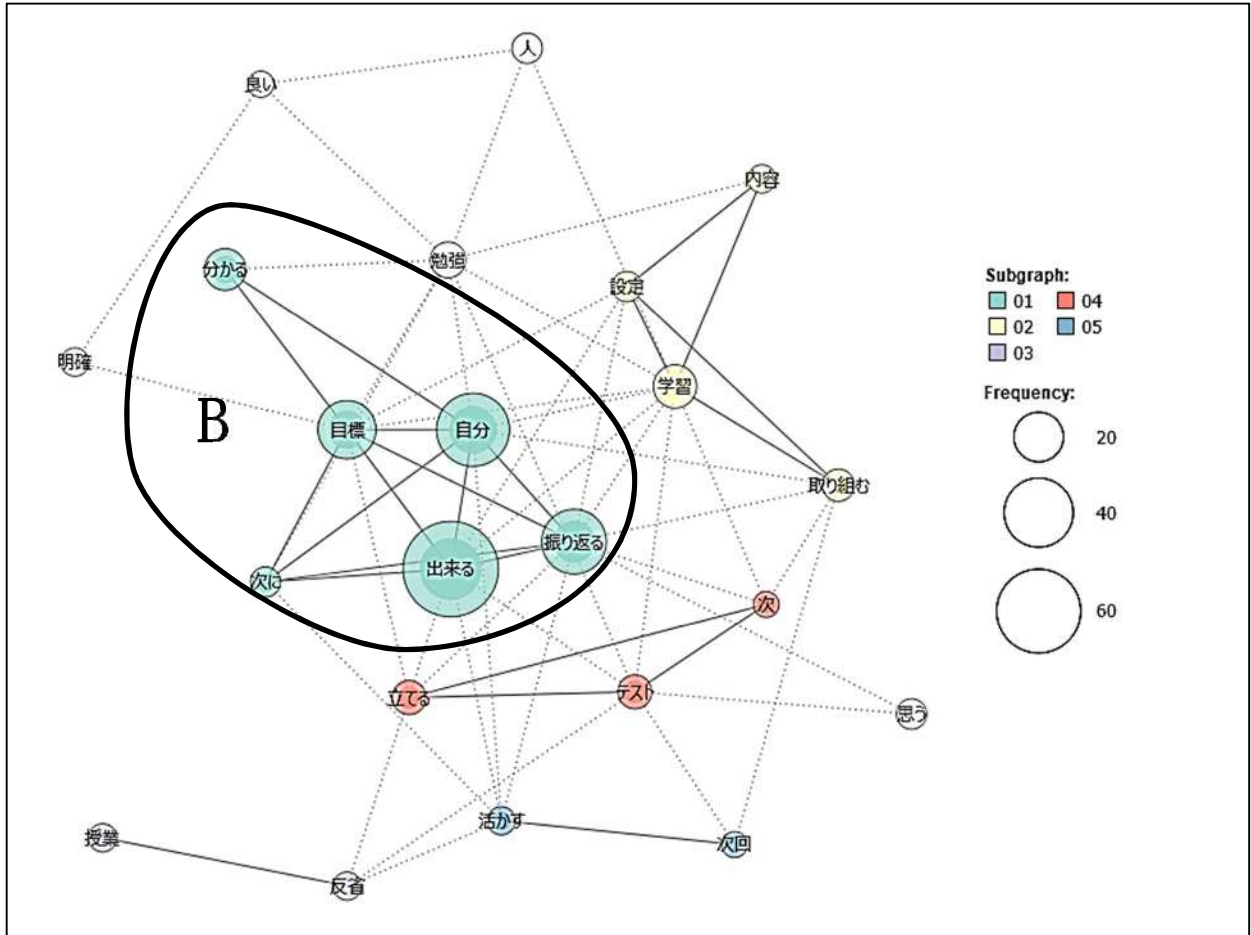


図2 「学習ポートフォリオに取り組んだ感想」(N=74)

語の出現頻度が高く、関連も強いB群のつながりから、学習ポートフォリオを活用することで、多くの学習者が、自分自身の目標を明確にし、事後に振り返りを行うことができていることが読み取れる。また、「次に」「次回」という言葉も頻出し、特に「次に」はB群にも属していることから、学習ポートフォリオが、活動の振り返りだけでなく、次の学習に活かすことにも役立つツールであることを認識していることが推察される。主にその日の授業で学習した内容を振り返る、いわゆる「振り返りシート」と異なり、学習ポートフォリオの活用は、「目標設定」・「活動のモニタリング」・「振り返り・自己省察」が一連のサイクルとなり、英語学習のプロセスとして機能することをねらいとしている。このサイクルをくり返し行うことで、なぜ英語学習がうまくいったのか、あるいはうまくいかなかったのかを考えるための資料となり、自律的な英語学習者の育成にもつながることが期待できる。以下は、学習者の記述(原文のまま)の一部である。

- ・自分の振り返りを行うことで、足りないところはどこかなどを理解することができる。またそれを次回の授業に活かし、自分の予習復習の効率を上げる。
- ・自分の立てた目標がすぐにわかり、達成するための手立ても書いてあるから、勉強の仕方に迷わない。
- ・目標を明確にすることで、自分が何をすべきかがはっきりして学習に取り組みやすくなること。また、目標に対する過程や結果がわかりやすいので振り返りやすく、次の目標を立てやすい。長期的な学習をする際に役立つ。
- ・自分の目標を書き出すことで、意識して勉強することができる。そして最後は振り返りをして、何ができるようになったか、何ができていないかなどを意識することで、自分のプラスの面は伸ばすことができるし、できなかったことは次につなげることができる。

③ 学習を自己調整する力についての自己評価の変化

新学習指導要領の総則には、「学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れ工夫すること」と記されており、学習者には学習を自己調整する力が必要である。そこで、学習ポートフォリオによってその力がどのように変化したかを調べるために、コミュニケーション英語Ⅱの授業で、初めて学習ポートフォリオを使用した9月と3か月後の12月に、以下の質問について自己評価（5件法）をさせた（N=35）。

- 質問1. 自分で立てた目標を達成することができた。
 質問2. 目標に向かって粘り強く取り組むことができた。
 質問3. 課題に取り組んでいる時、取り組み方が適切であるかを考えるようにした。
 質問4. これまでの取り組みに対して、十分に振り返ることができた。
 質問5. 振り返りは次の学習に活かすことができそうだ。

回答結果 (N=35)

設問	時期	とても強く思う	思う	どちらともいえない	思わない	全く思わない
1	9月	2人 (5.7%)	13人 (37.1%)	15人 (42.9%)	4人 (11.4%)	1人 (2.9%)
	12月	4人 (11.4%)	18人 (51.4%)	10人 (28.6%)	2人 (5.7%)	1人 (2.9%)
2	9月	2人 (5.7%)	8人 (22.9%)	17人 (48.6%)	7人 (20.0%)	1人 (2.9%)
	12月	5人 (14.3%)	14人 (40.0%)	14人 (40.0%)	2人 (5.7%)	0人 (0.0%)
3	9月	4人 (11.4%)	11人 (31.4%)	14人 (40.0%)	4人 (11.4%)	2人 (5.7%)
	12月	7人 (20.0%)	13人 (37.1%)	13人 (37.1%)	2人 (5.7%)	0人 (0.0%)
4	9月	4人 (11.4%)	13人 (37.1%)	13人 (37.1%)	4人 (11.4%)	1人 (2.9%)
	12月	8人 (22.9%)	11人 (31.4%)	15人 (42.9%)	0人 (0.0%)	1人 (2.9%)
5	9月	12人 (34.3%)	14人 (40.0%)	7人 (20.0%)	1人 (2.9%)	1人 (2.9%)
	12月	12人 (34.3%)	15人 (42.9%)	7人 (20.0%)	1人 (2.9%)	0人 (0.0%)

この結果から、全ての設問で「とても強く思う」「思う」という回答の割合が増えていることが分かる。特に、設問1「自分で立てた目標を達成することができた」、設問2「目標に向かって粘り強く取り組むことができた」の伸び率が高いことから、目標を設定することで伸ばすべき力が明確となり、学びが促進されたことが示唆される。また、設問5「振り返りは次の学習に活かすことができそうだ」について、9月・12月の調査が共に、「(とても強く)思う」の割合が70%を超えていることから、活動の省察だけでなく、次の学習に向けてどのように改善するかという学習方略を考えさせることにも、学習ポートフォリオによる振り返りが有益であることがうかがえる。

エ 考察

本研究では「主体的に学習に取り組む態度」を促すツールとして、学習ポートフォリオを導入し、その使い方を指導した上で、学習者に一定期間取り組ませた。学習ポートフォリオ内の記述の分析や学習者の感想・評価、質問紙調査から明らかになったことは以下の2点である。

① 学習ポートフォリオ活用による、主体的な学習態度の育成

学習者の目標設定については、自分自身の得意な面を伸ばそうとする者がいる一方、苦手を克服しようとする者がいるなど、多種多様であることが分かった。また、学習過程の中で生じた課題を次の学習に活かそうとする学習者が多くみられた。このことから、長期的な学習ポートフォリオの活用は、主体性をもって英語学習に臨む姿勢を身に付けさせることにも役立つことが推察された。

② 学習ポートフォリオ活用による、学習を自己調整する力の育成

2回の質問紙調査の回答比較により、目標達成と粘り強い取組を自覚する学習者の割合が大きく増加したことから、継続的に学習ポートフォリオを活用することで、学習を自己調整する力が向上する可能性が示唆された。

今回の調査は短期間であったが、一連の取組に一定の効果があったと言ってよいだろう。今後、更に長期的に学習ポートフォリオを活用しながら、主体性や自己調整の力を更に高める工夫や、言語習得へのより効果的な活用法などについて、研究し、検証を重ねていきたいと思う。

■「主体的・対話的で深い学び」を促す指導と言語活動

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

英語授業における「主体的・対話的で深い学び」を促す指導と言語活動

(2) 研究のねらい

新学習指導要領の実施に当たり、「主体的・対話的で深い学び」を促す指導と言語活動の在り方を考え、実践することで、そのアプローチが言語学習にもたらす効果について考察する。

(3) 研究担当者

神奈川県立保土ヶ谷高等学校（全日制） 近藤 飛鳥 教諭

2 実践事例

(1) 単元の指導と評価の計画

① 科目名：コミュニケーション英語 I

② 単元名：Lesson 5 Finding My Future ～All Aboard! English Communication I（東京書籍）

③ 単元の目標：自分や相手の好きなこと、将来したいことについて、

・理由・具体例を伴って、論理性に注意して考えを伝え合うことができる。

・学んだ表現を積極的に活用し、自分の考えを詳しく伝えることができる。

・話し手の意図を理解し、適切に反応することで、コミュニケーションへの意欲を示すことができる。

④ CAN-DOリストに基づく単元の学習到達目標及び単元の評価基準

CAN-DOリストに基づく単元の学習到達目標及び評価方法			評価方法		
			定期テスト 小テスト	パフォーマンス テスト	課題
知識・ 技能	知識	好きなことや将来したいことを伝える表現の特徴を理解し、語彙、文法（助動詞、不定詞、動名詞）等の言語知識を身に付けている。	○		
	技能	聞・読 人物の好きなことや将来の夢について話された文を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。 人物や場所の説明について書かれた文を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。	○		
		や・発・書 好きなことや将来したいことについて、考えを伝え合う技能を身に付けている。 好きなことや将来したいことについて、考えを書いて伝える技能を身に付けている。	○		○
思考・ 判断・ 表現	聞・読 好きなことや将来の夢について、必要な情報を聞きとることができる。 人物や場所の説明について、大まかな内容を読み取ることができる。	○			
	や・発・書 【生徒対話型のパフォーマンステスト】（ゴールタスク） 自分や相手の好きなこと、将来したいことについて、 ・理由・具体例を伴って、論理性に注意して考えを伝え合うことができる。 ・学んだ表現を積極的に活用し、自分の考えを詳しく伝えることができる。 ・話し手の意図を理解し、適切に反応することで、コミュニケーションへの意欲を示すことができる。 理由と具体例を伴って、自分の考えを書いて伝えることができる。	○	○		
主体的に学習に 取り組む態度	授業で学んだ表現を積極的に記録・活用して、主体的・自律的にコミュニケーションを図ろうとしている。		○	○	

評価基準（ゴールタスク及び主体的に学習に取り組む態度）

思考・判断・表現（話すこと [やり取り]）

論理性	A	二つの理由に加えて、適切な具体例を二つ伴って、自分の考えを伝えることができる。
	B	二つの理由に加えて、適切な具体例を一つ伴って、自分の考えを伝えることができる。
	C	二つの理由を伴って、自分の考えを伝えることができる。

表現の活用	A	フレームに加えて、適切な表現を複数組み合わせ、自分の考えを詳しく伝えることができる。
	B	フレームに沿って、適切な表現を複数用いて、自分の考えを伝えることができる。
	C	フレームに沿って、簡単な英語を用いて、自分の考えを伝えることができる。
態度	A	声量、アイコンタクト、相づちの三つ全てを適切に用いて話すことができる。
	B	声量、アイコンタクト、相づちのうち二つを適切に用いて話すことができる。
	C	声量、アイコンタクト、相づちのうち一つを適切に用いて話すことができる。
主体的に学習に取り組む態度（評価方法：表現シート・振り返りシートの提出）		
表現シート 振り返り シート	A	授業で学んだ表現及び自身の成長を積極的に記録し、設定した目標達成のために進んで学習に取り入れている。
	B	授業で学んだ表現及び自身の成長を積極的に記録できている。
	C	授業で学んだ表現及び自身の成長を積極的に記録できていない。

⑤ 単元（題材）の指導計画

単元計画		
時	学習活動	主体的・対話的で深い学びにつながる 学習活動のねらい
1	<p>○ イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ “What do you want to do after graduation and why?” (単元の基軸となる質問) ペアで考えを伝えあう。結果を振り返りシートに記録する。 ・ パフォーマンステストの内容と三つの目標を確認する。 ・ Personal Goalを設定する。 <p>・ “Let’s expand your vocabulary!”</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 下記Q1に取り組み、理由を設定する練習をする。その後ペアで会話をする。 ・ 英語でうまく伝えられなかった表現をクラスで共有し、表現シートに記入する。 <p>Q1 What do you want to do in your free time? ~Target Perspective (One Reason) ~</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>I want to listen to music because I can relax.</i> ・ <i>I want to eat sweets because I feel happy.</i> 	<p>⊕ 実際に質問に答えようとする中で、自分自身と向き合い、「できることとできないこと」を項目ごとに整理する。(例：将来したいことを伝えられる。その理由を伝えられる。具体例を挙げられる。声量、アイコンタクト、相づちを適切に用いて相手を意識しながら話すことができる。)</p> <p>⊕ 単元を通した学びで「何ができるようになるか」を意識することに加え、個人目標を設定することで主体的な学びを促す。</p> <p>⊕ 友人や教師とのやり取りの中で、表現を学び、記録していくことで表現の幅を増やす。</p> <p>⊕ 表現シートの記入を通して、使える表現が増えていることを確認し、単元の目標達成のために活用できるようにする。</p> <p>⊕ “Let’s expand your vocabulary!” は、基軸となる質問とパフォーマンステストに関連している。スモールステップで理由・具体例の設定の仕方について学び、段々と考えを論理的に伝えられるようにする。また、この活動を通して学んだ表現を組み合わせる中で、自身の考えを形成したり、深めたりする。</p>

<p>2 ~ 3</p>	<p>○ Reading “Part1”</p> <ul style="list-style-type: none"> Part1の単語を教科書を用いて調べる。 Part1のフレーズを例文で確認する。(パターン・プラクティス) 本文を用いて、欲しい情報を得るための読みの練習をする。(スキヤニング) 本文の聞き取りをする。(単語のディクテーション) 本文の意味を確認し、音読する。(サイト・トランスレーション) ターゲット・センテンスを聞き取る。(文のディクテーション) 英語でのやり取り(職業適性検査)を通し、職業についての考えを深める。 <p>“Let’s expand your vocabulary!”</p> <ul style="list-style-type: none"> 下記Q2に取り組み、理由・具体例を設定する練習をする。その後ペアで会話をする。 リアクションの表現や使い方について学び、実践する。 英語でうまく伝えられなかった表現をクラスで共有し、表現シートに記入する。 <p>Q2 What do you want to do during the winter vacation? ~Target Perspective (Examples) ~</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>I want to go to the South Pole because I want to do something unique. For example, I can take a picture of wild penguins.</i> <i>I want to stay home with my family because it’s relaxing. For example, I want to buy a lot of gummies and eat them in the Kotatsu.</i> <p>~Target Perspective (Reactions) ~</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>Wow! / Wonderful! / That’s amazing! / That’s interesting. / Really? / No way!</i> 	<p>㊦ 単語やフレーズの確認では、学んだフレーズを用いて自分自身や身近なことについて作文をする。また、表現シートに記入して振り返りを行うことで、単元を通して表現の幅が増えたことを感じられるようにする。</p> <p>㊧ 作った英文をペア等で共有し、伝え合うことの楽しさを感じられるようにする。その際、ただ文を読み上げるのではなく、質問を通して相手の考えを引き出すことで、実生活により近いコミュニケーションを経験できるようにする。</p> <p>深 ㊦ ㊦</p> <p>“Let’s expand your vocabulary!”に挑戦する中で、自身の考えを深めたり、表現を学んだりする。その後、基軸となる質問に再挑戦することで、学んだ表現を活用したり、自身の成長を感じられたりするようにする。</p> <p>㊧ 学年の教師の意見を紹介することで、生徒の興味を引き付けることに加え、生徒の日常生活に関連した表現を学べるようにする。</p> <p>深 生徒の答えを確認する中で、頻度の多い間違いや、共通して見受けられる改善点などがあれば、クラス全体で共有する。</p> <p>深 リアクションに関しては、「総合的な探求の時間」で学んだグループワークの三つのルールを再確認し、英語でのやり取りにおいても肯定的な反応を示せるようになる。(教科等横断的な学習)</p>
<p>4 ~ 5</p>	<p>○ Reading “Part 2”</p> <ul style="list-style-type: none"> Part 2の単語を教科書を用いて調べる。 Part 2のフレーズを例文で確認する。(パターン・プラクティス) 本文を用いて、欲しい情報を得るための読みの練習をする。(スキヤニング) 本文の聞き取りをする。(単語のディクテーション) 本文の意味を確認する。(サイト・トランスレーション) 本文の音読をする。 ターゲット・センテンスを聞き取る。(文のディクテーション) 英語でのやり取り(職業の説明)を通し、職業についての考えを深める。 <p>“Let’s expand your vocabulary!”</p> <ul style="list-style-type: none"> 下記Q3に取り組み、理由・具体例を二つずつ設定する練習をする。その後ペアで会話をする。 英語でうまく伝えられなかった表現をクラスで共有し、表現シートに記入する。 <p>Q3 What do you want to do next year? ~Target Perspective (Two Reasons) ~</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>I want to enjoy the school trip. I have two reasons. First, the school trip is very special for high school students. For example, it’s a rare chance to talk with friends all night. Second, it’s a good chance to visit a new place. For example, I’m looking forward to seeing whale sharks at Churaumi Aquarium.</i> 	<p>㊦ 単語やフレーズの確認では、学んだフレーズを用いて自分自身や身近なことについて作文をする。また、表現シートに記入して振り返りを行うことで、単元を通して表現の幅が増えたことを感じられるようにする。</p> <p>㊧ 作った英文をペア等で共有し、伝え合うことの楽しさを感じられるようにする。その際、ただ文を読み上げるのではなく、質問を通して相手の考えを引き出すことで、実生活により近いコミュニケーションを経験できるようにする。</p> <p>深 ㊦ ㊦</p> <p>“Let’s expand your vocabulary!”に挑戦する中で、自身の考えを深めたり、表現を学んだりする。その後、基軸となる質問に再挑戦することで、学んだ表現を活用したり、自身の成長を感じられるようにする。</p> <p>㊧ 学年の教師の意見を紹介することで、生徒の興味を引き付けることに加え、生徒の日常生活に関連した表現を学べるようにする。</p> <p>深 生徒の答えを確認する中で、頻度の多い間違いや、共通して見受けられる改善点などがあれば、クラス全体で共有する。</p>

6	<p>○ 動名詞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動名詞の使い方、使用場面を確認する。 ・動名詞の使い方をパターン・プラクティスで身に付ける。 ・動名詞を用いたコミュニケーション活動に挑戦する。 	<p>⑧ インフォメーション・ギャップのあるコミュニケーション活動を通して、やり取りの中で動名詞の使い方、使用場面を理解できるようにする。</p>
7 ~ 8	<p>○ Practice for the presentation “Let’s expand your vocabulary!”</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下記Q4（基軸となる質問）について、ペアで会話をする。 ・英語でうまく伝えられなかった表現をクラスで共有し、表現シートに記入する。 ・理由・具体例を二つずつ設定できるよう、ブレインストーミングを通して考えを整理する。 ・より具体的に答えるために、表現シートを振り返り、学んできた表現を活用する。 <p>Q4 What do you want to do after graduation?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンステストに向けて評価基準を再度確認する。 ・声量、アイコンタクト、相づちを適切に用いて相手を意識しながらやり取りできるように、ペアで練習を重ねる。 	<p>⑨ 単元を通して学んできた表現を振り返り、積極的に活用することを通し、習った表現が定着するようにする。</p> <p>⑩ 可能であれば、フレームに加えてオリジナルの英文を足すように促すことで、自分の伝えたいことを英語にしようとしてみる主体性を伸ばす。</p> <p>⑪ ペアでの練習では、アイコンタクトの回数をカウントする活動を通し、相手を意識して伝え合うことの楽しさを感じられるようにする。また、表現や伝え方に関しての学びあいを促す。</p> <p>⑫ 練習をする中で、頻度の多い間違いや、共通して見受けられる改善点などがあれば、クラス全体で共有する。</p>
9 ~ 10	<p>○ 発表（パフォーマンステスト）</p> <p>【テスト中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランダムに選ばれたペアと別室において、将来したいことについて伝えあう。 ・話しているときは、意味のまとまりやアイコンタクト等を意識し、相手が聞き取りやすいようにする。 ・聞いているときは、適切なりアクションをして、相手が話しやすいようにする。 <p>【テスト中以外】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助動詞canやwill、不定詞や動名詞を用いて、おススメの施設や場所について説明するポスターを制作する。 <p>【テスト終了後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元を通してできるようになったこと、これからの課題について振り返る。 	<p>⑬ 話し手は聞き手を意識すること、聞き手は話し手を意識することで、お互いの考えが伝わりやすくなることを確認する。</p> <p>⑭ 単元を通して学んだ表現や論の展開を、別の内容におけるポスター制作に応用する。</p> <p>⑮ 単元の振り返りを通して、自身の成長や課題を確認し、次の学習につなげるきっかけとする。</p>
後 日	<p>○ 定期テスト／提出物の回収</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期テストにおいて以下の評価をする。 <p>【知識・技能】</p> <p>⑯ 好きなことや将来したいことを伝える表現の特徴を理解し、語彙、文法（助動詞、不定詞、動名詞）等の言語知識を身に付けている。</p> <p>⑰ 人物の好きなことや将来の夢について話された文を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。</p> <p>⑱ 人物や場所の説明について書かれた文を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>⑲ 人物の好きなことや将来の夢について、必要な情報を聞きとることができる。</p> <p>⑳ 人物や場所の説明について、大まかな内容を読み取ることができる。</p> <p>㉑ 理由と具体例を伴って、自分の考えを書いて伝えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冊子／表現シート／振り返りシートの提出を通して以下の評価をする。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>㉒ 授業で学んだ表現を積極的に記録・活用して、主体的・自律的にコミュニケーションを図ろうとしている。</p>	<p>⑯ “Let’s expand your vocabulary!” で学んだ表現等を、定期テストのスピーキング以外の技能でも活用するように事前に促す。</p>

⑥ 授業実践例

学習活動（指導上の留意点を含む）	評価の観点（評価方法）
<p>【前時の振り返りと本時の目標の確認】（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スピーキングQ2（1回目） ・“What do you want to do in the winter vacation?”についてペアで答え合う。 <p>【理由・具体例の設定】（25分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Kahoot!を用いて、スピーキングQ2の解答（学年の教師が答えてくれたもの）を幾つか読み、どの教師の考えかを当てる。 ○ Kahoot!に出てきた解答を分析し、具体例の設定方法を学ぶ。（Focus on Form） ○ スピーキングQ2に対して、理由・具体例を再設定する。 <ul style="list-style-type: none"> ・できたらスタンプ→確認が終わった生徒はReadingに取り組む ・「伝えたいけれど言えなかった表現」をクラスで共有する ○ スピーキングQ2（2回目） <p>【リアクション】（15分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 肯定的なリアクションの導入 <ul style="list-style-type: none"> ・英語の「いいね」で知っている表現をMentimeterで共有 <p>※ Mentimeter／参加者の考えがリアルタイムでワードクラウドやグラフなどの形で表示されるプレゼンテーション・ソフト（https://www.mentimeter.com）</p> <div data-bbox="220 891 708 1155" data-label="Figure"> </div> <p>（図1）Mentimeterを用いて共有した生徒の回答（英語の「いいね」で知っている表現）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探求の時間に学んだ「グループワークにおける三つの約束」を確認 ○ 肯定的なリアクションの練習 <ul style="list-style-type: none"> ・リアクションがどのように使われているかをYoughlishで確認 ・ペアでリアクションの練習→リアクションの目的の確認 ・スピーキングQ2（3回目） <p>【まとめ】（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スピーキングの振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・スピーキングQ2（3回目）の結果について、振り返りシートへの記入及びMentimeterで共有 <div data-bbox="220 1585 748 1877" data-label="Figure"> </div> <p>（図2）Mentimeterを用いて共有した生徒の回答（スピーキングの振り返り）</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度 （振り返りシートの記述）</p>

(2) 結果の検証

ア 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導のポイント

① 主体的な学びの視点

- 単元を通じた学びで、「何ができるようになるか」を意識させる。
 - ・単元の初めに、1 レッスン分のハンドアウトを冊子の形で生徒に配付する。
 - ・レッスンの最後に行うパフォーマンステストの内容・採点基準を最初に示す。
 - ・パフォーマンステストに向けて、個人目標を設定させる。
- 単元を通じた学習活動を振り返り、身に付いた能力を自覚させる。(振り返りシート)
 - ・パフォーマンステストに向けた練習の授業 (**Let's expand your vocabulary!**) では、授業の最初に前時のスピーキングの結果を振り返り、目標達成に向けて伸ばすべき能力を確認させ、授業の終わりに本時のスピーキングの結果を振り返り、身に付いた能力を自覚させる。(振り返りシートへの記入・Mentimeterを用いた結果の共有)
- 活動の中で使ったり学んだりした表現を記録させ、知っている表現が増えたことを自覚させる。(表現シート)
 - ・授業中に使用したり教師に質問したりして学んで英語表現を書きため、振り返りを行うことで、単元を通して表現の幅が増えたことを感じられるようにする。

② 対話的な学びの視点

- 思考を交流させ、他者から表現を学ばせる。
 - ・友人や教師とのやり取りの中で表現を学ばせ、記録させていくことで表現の幅を増やす。
 - ・学年の教師の考えを紹介することで、生徒の興味を引き付けることに加え、生徒の日常生活に関連した表現を学べるようにする。
- 協働的な学び合いを通して問題解決を促す。
 - ・Kahoot!を用いた既習事項の確認では、ペアで端末を共有させ、協働的な学習を促す。
 - ・ペアでのスピーキング練習では、アイコンタクトやリアクションの回数をカウントする活動を通し、相手を意識して伝え合うことの楽しさを感じられるようにする。また、表現や伝え方に関しての学び合いを促す。

③ 深い学びの視点

- 自身の考えを深めさせる。
 - ・“**Let's expand your vocabulary!**” では、スモールステップで理由・具体例の設定の仕方について学ばせ、徐々に考えを論理的に伝えられるようにする。また、この活動を通して学んだ表現を組み合わせる中で、自身の考えを形成させたり、深めさせたりする。
 - ・テキストを読む際、将来の夢を持っている高校生について学ばせるだけでなく、「自分はどう考えているのか」という視点で自分自身とテキストの内容を照らし合わせながら、自身の考えを深めさせる。
- 知識を関連付けて、場面に応じて活用させる。
 - ・スピーキングの練習をくり返す中で、使いやすい表現を見つけ出し、別のトピックでも活用できるようにさせる。
 - ・“**Let's expand your vocabulary!**” で学んだ表現等を、パフォーマンステスト (スピーキング) だけでなく、ライティング等の別の技能でも活用するように事前に促す。
 - ・「総合的な探究の時間」で学んだ、グループワークを円滑にするためのリアクションを再確認し、英語でのやり取りにおいても肯定的な反応を示せるようにさせる。(教科等横断的な学習)

イ 指導に対する生徒の反応（アンケート調査）

- ① 実施方法：アンケート（マークシート及び記述調査）
- ② 対象：1学年の生徒（79名）
- ③ 実施時期：パフォーマンステスト直前の授業
- ④ 結果

○ 選択式回答：次の各活動は「将来の夢を論理的に語れるようになる」ためにどの程度役だったと感じましたか。

学びの種類	活動	役立った	少し役立った	余り役立たなかった	役立たなかった
主体的な学び	レッスンの最初にスピーキングテストの内容・採点基準や、やるべきことを確認する	34人 (43.0%)	38人 (48.1%)	7人 (8.8%)	0人 (0.0%)
	振り返りシートを記入する	27人 (34.1%)	41人 (51.9%)	10人 (12.7%)	1人 (1.3%)
	スピーキング練習後にMentimeterで結果を入力する	27人 (34.1%)	41人 (51.9%)	11人 (13.9%)	0人 (0.0%)
	表現シートを記入する	33人 (41.8%)	36人 (45.6%)	8人 (10.1%)	2人 (2.5%)
	知りたい表現についてChromebookを使って自分自身で調べる*	53人 (67.1%)	22人 (27.8%)	2人 (2.5%)	1人 (1.3%)
対話的な学び	ペアでスピーキングの練習をする	50人 (63.3%)	27人 (34.1%)	2人 (2.5%)	0人 (0.0%)
	知りたい表現について教師から学ぶ	57人 (72.2%)	19人 (24.1%)	3人 (3.8%)	0人 (0.0%)
深い学び	4回かけて徐々に難しいトピックに答えていく	33人 (41.8%)	40人 (50.6%)	6人 (7.6%)	0人 (0.0%)

* 1名無回答

○ 自由記述式回答：「将来の夢を論理的に語れるようになる」ために特に役立ったと思う活動について書いてください。

学びの種類	活動内容	数	例（生徒の回答をそのまま記述）
主体的な学び	・学習に見通しを持つ ・振り返りシートに記入する	3	・レッスンの最初に採点基準を確認できたのがよかった。 ・振り返りシートを書くことで、自分のどこがいけないのかわかるし、すごく役に立った。
	・表現シートに記入する	6	・スピーキングテストはたくさん表現を知っていないと自分の言いたいことを相手に伝えるのは難しいから、表現シートや先生に教えてもらうのがとてもよかった！ ・Chromebookで調べたり、表現シートを記入することで、自分の言いたいことをうまく表現できるようになった。
	・単語や表現を自分で調べる	18	・自分で調べて書いたりするのが頭によく入って役立った。 ・Chromebookで表現を調べることで、知らない単語やその意味を知ることができて一番役立ったと思います。 ・Chromebookで表現を調べることが非常に良いと感じました。自分で調べて書いているので覚えられたりもするし、大事な表現や自分にしかわからない表現が英語でわかったりするので良いと思います。 ・Chromebookで調べると自分が知りたい表現だけでなく発音も聞けるからありがたいと思いました。

対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアでスピーキング練習をする ・単語や表現を友人と学び合う 	23	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで話すといろいろ色々な表現もわかるし、英語力が少しずつ上がる気がする。 ・ペアでスピーキングの練習したことが役立った。言葉に出して言うことで発音とか覚えやすかった。 ・ペアでスピーキングの練習をしたことがすごく勉強になりました。ペアの人のリアクションの仕方だったり、表現の仕方など、自分だけじゃ思い付かないことも知ることができました。 ・ペアでのスピーキング練習で、また違った表現の仕方があることに気づいたことが役立ったと思いました。 ・友達とペアワークすることで、「この単語使えるな」と思ったこともたくさんあってすごく役立った。 ・ペアワークでの練習が役立った。相手にどう言えば伝わるかななどをリアルタイムで考え、模索することができた。 ・私はスピーキングテストに向けて、みんなが聞きやすいような速度で話したいし、自分がどのように聞こえているのかを知りたいからペアでやりたいです。 ・ペアで練習することが一番役立ったと思う。理由などをよりわかりやすく伝わりやすくすることを考えられた。 ・ペアワークをすると楽しく覚えられるので続けたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・単語や表現を教師から学ぶ 	17	<ul style="list-style-type: none"> ・知らなかった表現や単語を先生がよく黒板に書いてくれて、新しいことをたくさん知れて楽しかった。 ・わからない単語を黒板に書いてもらったり、英文をチェックするときに教えてくれたことでスムーズに勉強できました。 ・黒板上で表現を教えてもらえると、自然に頭に入って覚えやすかったです。 ・もっといろいろな表現を知りたいので教えてほしいです。
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の考えを深める ・知識を関連付けて、場面に応じて活用する 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・答えだけでなく理由や具体例まで考えるのがよかったです。 ・練習で文をたくさん作ったことが役立った。

⑤ 考察

選択式回答の分析結果を見ると、どの活動に対しても9割近くの生徒が「将来の夢を論理的に語れるようになる」ために「役立った」「少し役だった」と答えている。その中でも「知りたい表現についてChromebookを使い自分自身で調べる」「ペアでスピーキングの練習をする」「知りたい表現について教師から学ぶ」については、役立ったと感じている割合が特に高いことが分かる。表現を自分で調べたり、教師から教えてもらったりした上で、友人と話して練習することが有用だと感じている生徒が多いと考えられる。

自由記述では、主体的な学びと対話的な学びに関する活動に関するコメントが多かった。「自分の考えを論理的に話す」という目標に対して、主体的な学びや対話的な学びを通して「使える表現を増やす」ことが有効であることを示唆している。なかでも単語や表現の学び方に関するコメントが多く、「自分で学ぶ」「友人と学ぶ」「教師から学ぶ」という3種類の学び方のうち、どの学び方に関しても有益だと感じている生徒が一定数いることが分かった。学び方の好みには様々あり、一つの学び方に偏ることがないように、複数の手段を授業に取り入れてほしいという生徒の要望が表れている。

3 まとめ

卒業後にしたいことについて考えを伝え合うというパフォーマンステストは、本校の1年生の生徒にとって、内容面においても表現面においても挑戦的なものであった。それができるようになるための道筋を示し、単元の中での自身の成長を確認させた「主体的な学び」の視点、友人や教師とのやり取りの中から表現の幅を増やした「対話的な学び」の視点、基軸となる質問にくり返し答える中で自身の考えを深めていった「深い学び」の視点、どれもが生徒が単元の目標を達成する上で、重要な役割を果たしていることが明らかになった。特に、表現を学ぶことが有益だと感じている生徒が多く、様々な方法で表現の幅を増やしたいと感じている点は注目に値する。実際のパフォーマンステストで

も、学んできた表現を用いながらいきいきと自身の夢を語る様子が印象的であった。達成感に満ちた表情は、自分なりの方法で見つけてきた表現を使って自己表現ができるようになったという学習のプロセスによってもたらされたものようにも見えた。本研究が、学習のプロセスが生徒に与える影響への理解と、「主体的・対話的で深い学び」の促進の一助となれば幸いである。